明るい日田

No.1687
2024年
9月19日
発行者
日本共産党
西部地区
委員会
日田市中城町
6-29
TEL24-2145

今週発売
900円

9月議会 一般質問 「生ごみ分別から焼却」ただす

市民の意見は生ごみ焼却に反対6割

日隈市議は10日、市長が「生ごみ分別から生ごみ焼却」に方針を変えたことについて質問。市民の意見募集には、生ごみを燃やすことに6割が反対しています。

市は、2006年からバイオマス資源化センターで生ごみと豚糞尿をメタンガスに変え発電してきました。2016年3月、施設が老朽化し点検整備に毎年1億円かかることから、新たな施設整備の検討を始めます。

市は今年5月、し尿などの処理を行う浄化センターに新たに生ごみと豚糞尿を処理する施設を建設する場合56億円かかることや、浄化センター周辺の住民の同意を得ることが難しいなどの理由をあげ、生ごみの分別収集をやめ、生ごみを焼却 処理する方針を議会に説明しました。

日隈市議は、7月に行った市民の意見募集（パブリックコメント）の結果を質問。市長は「75名から貴重な意見をいただいた。生ごみ焼却に賛成が32名（43％）、反対が43名（57％）と少し反対意見が多かった」と答えました。

「生ごみ資源化の継続と有機農業の推進を求める日田市民の会」（会長・甲斐美徳氏）は8月16日、市長に要望書を提出しています。

日隈市議は「生ごみの分別収集をこれからも続けて、生ごみを堆肥に変えて活用する施設を考える必要があるのではないか」と質問。市民環境部長は「高額な建設費用に加えて、建設地周辺の臭気の問題がある。生ごみと牛糞の混合による堆肥生産は難しい」と答えました。

日隈市議は「生ごみ分別をやめると燃やすごみが2300㌧増え、新清掃センターの焼却炉も大きくなる」と指摘。市民環境部長は「生ごみの家庭や地域での堆肥化の推進。燃やすごみの50％を占める紙の分別を徹底し、リサイクル率を高める」と説明しました。

▲生ごみ分別から生ごみ焼却に方針を変えた流れをパネルで説明する日隈市議（写真中央、 9月10日）

志位議長が語ったオンラインゼミ
Q&A 共産主義と自由
～魅力と新しい解明あふれる～

放課後児童クラブ 公民館運営事業団が運営

支援員の労働条件の引き上げ求める

日隈市議は10日、「運営が変わると、給料が下がる」との匿名メールを受けとったことを前置きし、放課後児童クラブの支援員などの労働条件を質問しました。

市長は昨年、放課後児童クラブの運営を一元化して、保護者の負担軽減、指導員の確保、利用の公平につなげることを公約。今年11月から児童クラブの運営が公民館運営事業団に委託されます。11月に19クラブのうち10クラブが委託され、残り9クラブも2026年3月までに運営委託されます。

日隈市議は、保護者がつくる運営委員会から公民館運営事業団に運営が変わった後の、支援員などの労働条件を質問。福祉保健部長は「支援員などの給与は現状、児童クラブ間で著しい格差がある。今回の委託にあたって、同じ勤務内容である場合、同一の給与水準とし、現在より収入が減少とならないよう配慮した」と説明。また、「一部の支援員の方は、年収が減額となる可能性がある」と、つけ加えました。

日隈市議は「支援員の経験が20年以上ある方でも、運営が変わった後の基本給は1年目で計算される」と問題点を指摘。部長は「雇用の継続にあたらず、問題ない」と答えました。

放課後児童クラブ
運営の一括委託

2023年7月	市長「放課後児童クラブの運営一元化」を公約
2024年7月	公民館運営事業団に委託された後の労働条件を説明
2024年7月	保護者代表会議
2024年8月	運営移行の３者協議
2024年11月	10の放課後児童クラブが運営移行
2026年4月	19すべての放課後児童クラブが運営移行